

レジメンcode:	C65-05	備考
適応がん種:	上部尿路癌	
レジメン名:	Avelumab療法	
間隔:	2週間	

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	バベンチオ	10	mg/kg	点滴(60分)	d1

day1

- |             |       |    |                |
|-------------|-------|----|----------------|
| 1) カロナール    | 500mg | 1錠 |                |
| d-クロルフェニラミン |       | 1錠 |                |
|             | 内服    |    | バベンチオ投与30~60分前 |

\*infusion reactionを軽減させるため、バベンチオ投与30~60分前に上記の薬剤の内服を行なう事

day1

- |          |       |          |                   |
|----------|-------|----------|-------------------|
| 1) 生食    | 50ml  | 1本       |                   |
|          |       |          | ルート確保             |
| 2) バベンチオ |       | 10 mg/kg |                   |
| 生食       | 250ml | 1本       | インラインフィルター必須      |
|          | 主管①   | 点滴 60分   | 調製後4時間以内に投与終了すること |
| 3) 生食    | 50ml  | 1本       |                   |
|          |       |          | フラッシュ             |

〈所要時間 約1時間30分〉

### 【文献】

国際共同第Ⅲ相試験(B9991001試験)NEJM 2020;383:1218-30(PMID:32945632)

\*適応:根治切除不能な尿路上皮癌における化学療法後の維持療法

\*甲状腺機能障害、下垂体機能障害及び副腎障害があらわれる事があるため、投与開始前及び投与期間中は定期的に内分泌機能検査を実施すること。

◎検査セット登録あり:場所 カルテ→(検体)→(特殊セット)→(免疫チェックポイント初回)(免疫チェックポイント2回目~)

\*インラインフィルター(0.2 μ m)を使用する。

\*調製後25℃以下で4時間以内に投与終了すること。

\*調製後、冷所保存(2~8℃)した場合は、投与前に室温に戻し24時間以内に投与終了すること。

\*生理食塩水に溶解し、他剤との混注はしないこと。

\*適正使用ガイドの有害事象(肺、肝、内分泌障害、皮膚、腎、神経関連など)対処方法を参照する。

次ページあり

\*臨床試験での検査スケジュール、減量・休薬基準を参照する。

副作用	程度 <sup>(注)</sup>	処置
間質性肺疾患	Grade 2の場合	Grade 1以下に回復するまで休薬する。
	Grade 3、4又は再発性のGrade 2の場合	本剤の投与を中止する。
肝機能障害	AST若しくはALTが基準値上限の3～5倍、又は総ビリルビンが基準値上限の1.5～3倍に増加した場合	Grade 1以下に回復するまで休薬する。
	AST若しくはALTが基準値上限の5倍超、又は総ビリルビンが基準値上限の3倍超に増加した場合	本剤の投与を中止する。
大腸炎・下痢	Grade 2又は3の場合	Grade 1以下に回復するまで休薬する。
	Grade 4又は再発性のGrade 3の場合	本剤の投与を中止する。
甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症、副腎機能不全、高血糖	Grade 3又は4の場合	Grade 1以下に回復するまで休薬する。
心筋炎	新たに発現した心徴候、臨床検査値又は心電図による心筋炎の疑い	休薬又は投与中止する。
腎障害	Grade 2又は3の場合	Grade 1以下に回復するまで休薬する。
	Grade 4の場合	本剤の投与を中止する。

副作用	程度 <sup>(注)</sup>	処置
infusion reaction	Grade 1の場合	投与速度を半分に減速する。
	Grade 2の場合	投与を中断する。患者の状態が安定した場合 (Grade 1以下) には、中断時の半分の投与速度で投与を再開する。
	Grade 3又は4の場合	本剤の投与を中止する。
上記以外の副作用	Grade 2又は3の場合	Grade 1以下に回復するまで休薬する。
	・ Grade 4又は再発性の Grade 3の場合 ・ 副作用の処置としての副腎皮質ホルモン剤をプレドニゾン換算で10mg/日相当量以下まで12週間以内に減量できない場合 ・ 12週間を超える休薬後もGrade 1以下まで回復しない場合	本剤の投与を中止する。